

# SORA *Travel*

web magazine 2016.jun. vol.73



# Indonesia Photo & Text : Yasuaki Kagii MANADO

## Ordinary Beauty Manado ～日常的な美しさ メナド～

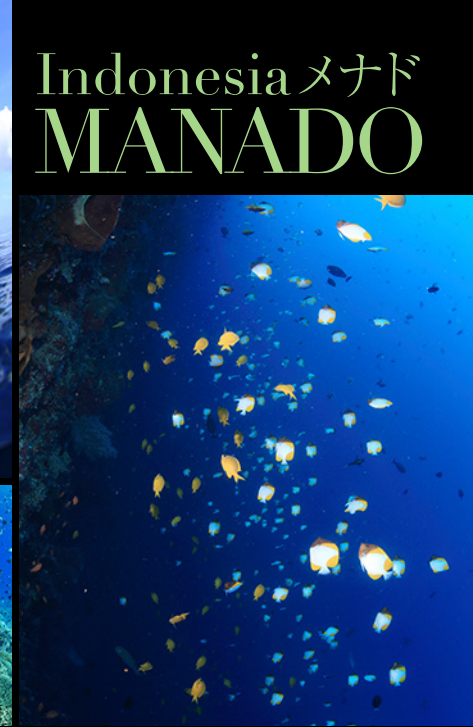
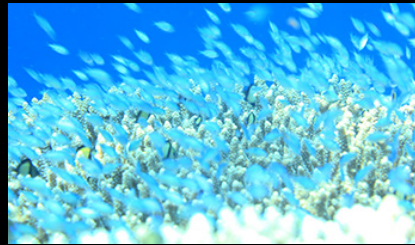
メナドの海は、変わらずとても美しかった。特にブナケン島の周辺のポイントはサンゴも見事で、ウォールダイブを楽しめる壁も、ソフトコーラルやホヤ、カイメンなどが生き生きとしている。壁での生き物観察は中性浮力が必要で、たくさんのダイバーが訪れても、それほど荒れない理由のひとつになっていると思う。久しぶりのブナケン島のポイントに潜って思ったことは、全てのダイバーに優しい海だということ。大きなギンガメアジやバラクーダの群れなどは見かけないが、お魚の群れもちゃんといつも居るし、大きなカメもいる。すごく特徴のある海ではないかもしれないけれど、オーディナリーな（日常的な）美しさをちゃんと備えた海であるということ。それがこの海の最大の魅力ではないか、と再確認した。





# 変わらず美しいドロップオフ

ココティノスマナドから約35分。バナケン島の周辺にある代表的なポイント、レクアンII。ドロップオフの世界的に有名なウォールダイブポイント。約10年前によく潜っていたが、今はいったいどうなっているのだろう、と少し心配してポートからエントリーした。リーフの上は、サンゴはまばらに見える。でもこれは以前と変わらない。リーフの上だからと言ってびっしりとサンゴが群生しているわけでもない。深度を落として、進んでいく。以前と変わらない垂直の壁にイソギンチャクやホヤ、カイメンなど。全然変わっていない、と心の中でつぶやく。ただ前と違うのは、今回は、ナイトロックスを使用しているということ。前は空気タンクで、平均水深が10~15m。今回は、20m付近をウロウロすることが多い。空気タンクの時には少ししかいらなかった素敵な深度に、今は長くいることができる。そこは、ダイバーに疲れた海ではなく、少し深い手つかずの壁が待ち受けていた。そこで見られる生き物は特別になった訳ではない。ツートンドティバックやイナズマヤッコ、ウミウシやエビカニの甲殻類。そして、このポイントに潜った最大の理由は、アオウミガメ。まだずっとこの壁のくぼみで休んでいるとのこと。「それは全然変わらない」と、長年の友人であり、ガイドのジャマルが教えてくれた。そして、30分過ぎに、休んでいるアオウミガメに出会った。どれだけ接近しても逃げない。きっとカメラとダイバーの関係が良いのだろう。そして、浅瀬に向かうと素敵な景色に出会った。すこし奥まったリーフに潮が当たっていて、そこにスズメダイやイスズミ、また中層には黄色いスズメダイやカスミチョウチョウウオなどが群れている。それもハンパない数。きっと潮当たりの良いタイミングに出くわしたのだろう。いつまでも変わらない素晴らしいメナドの海がそこにはあった。



## Indonesiaメナド MANADO





# Indonesiaメナド MANADO

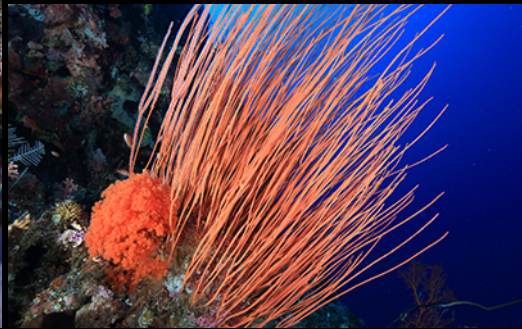
2本目のダイビングは、ブナケンティムール。「サンゴも綺麗で、マクロの生き物も面白いポイントに行きたい!」という私のリクエストで決まった。エントリーして、オランウータンクラブやウミウシ、ニチリンダテハゼなどお決まりのメンバーを撮影していく。途中、ガイドのアバが手招きをする。すると小さなオーバーハングに溜まった空気に反射しているウミウシを撮影しろ!という合図。「なるほど、このガイドはこのようなテクニックもあるのか…」と関心しながら、撮影、撮影。そしてダイビングの後半に浅瀬に向かう。サンゴのコンビネーションがとても豊かで美しい。10年前に潜った時よりも良い印象。というのも、その間にこのサンゴ礁がどれだけ素晴らしいのか! 世界の海を見てきたからわかる。最近、露出の減ったメナドだけど、逆にそれが良いのか、海中環境はさすがに整っていた。



## ガイドのテクニツクとローカルポイント

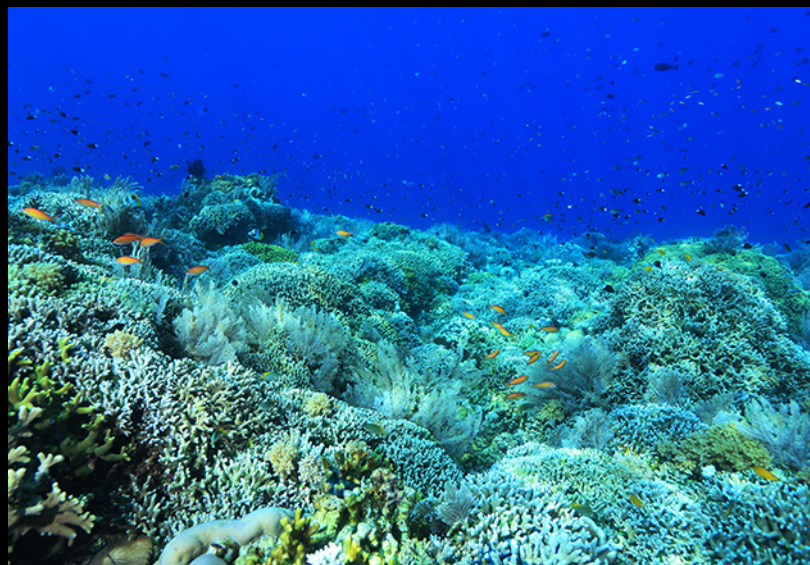
3本目は香港からのゲストの到着を待って、3時半からダイビング。行き先は、リゾートの近くのローカルエリアで、ボートで約5分のPosi-posiil。Posi-posiilとは現地の言葉でマングローブという意味らしい。潜り込んだのはマングローブではなく、その沖にあるエリアで、真っ白な砂地のポイントだった。点在する根などを丁寧に探していくと、エビカニ、ウミウシなどが見つかる。ダイビングの後半、浅瀬に戻るとシマハギが集団で放精放卵していた。またロクセンズメダイも集団産卵していた。マクロのポイントだと思っていたが、壮大な生態行動が観察できた。





## 日常的な美しさのメナドの海

2日目、午前中はブナケン島まで行く。1本目のポイントはMandorin。ブナケン島の西南側のポイントも、とにかくサンゴが美しいポイント。晴天の中、ボートからエントリー。太陽の光が燦々と降り注ぐリーフの上は、まるで宝物で、以前からまったく変わらない手つかずの海が広がっていた。そして、壁沿いに水深を落としていく。ガイドのアバは、私にマクロの生き物を見せようと必死に壁に付く生き物を探しているが、私はそれどころではない。壁沿いには、奇抜な形をしたスポンジやカラフルなソフトコーラルが群生している。ブルーウォーターには、カスミチョウチョウウオやクマザサハナムロの群れが躍動している。こんなに綺麗な壁があるのに、ガイドさんは小さな生き物ばかり探して、大きな視点を欠いている。そのことがもったいなくて…。撮影の途中から、ガイドさんも驚くような、また忘れていたメナドのウォールダイブの魅力が表現できている写真を撮ろう、と心がける。しかし、壁は美しいのだけど、撮影の良きポイントが見つからない。見た目は美しい。でもどうしたら、この美しさを表現できるのか？ ガイドさんも私も表現方法は違えど、このポイントの魅力を語るのに苦労している。ダイビングの後半、マダラタルミの大きな群れに遭遇。そしてまた美しいサンゴの上で安全停止して全てのダイビングを終えた。





# サチコポイントへ!

2本目は、バナケン島の東南に位置するサチコポイントへ。サチコさんは日本人ダイバーに対して、メナドを紹介してくれたパイオニア的な存在の女性。私がメナドに初めて来る切っ掛けのひとつとなった方。リスペクトの気持ちを込めてエントリー。浅瀬の風景は、サンゴとガヤのコンビネーションで少し他と違った趣がある。少し緩やかなドロップオフでは、タイマイやセジロクマノミ、ウミウシやエビカニが待っていてくれた。ブルーウォーターでは、ユメイロモドキの群れが、彩りを添えていた。明るく優しいイメージのポイントだった。



午後の3本目は、港から2分ほどのOdyssey point I。緩やかな傾斜の白い砂地に人工物が点在し、そこが魚礁となっている。ニシキフウライウオやミノカサゴの幼魚の群れなどを発見。次にトオアカクマノミのコロニーを訪れる。イソギンチャクの隣には卵が産みつけられていた。口の中に寄生虫を宿した母親クマノミを撮影しようとしたが、あまりにもアグレッシブで、ガイドのアバに常に襲いかかる…。なかなか気性が荒いので、口の中の撮影は諦めた。その後、浅瀬のサンゴエリアに行き、オレンジ色のカイメンに付いたウミウシなどを撮影。ゆっくりのんびりと素敵ダイブでした。

Indonesiaメナド  
MANADO





# メナドの海で 会える魚群?!

Indonesiaメナド  
MANADO

3日目の1本目は、リゾートから約1時間のモンテハゲ島まで。狙いはバラクーダの群れ。優しいイメージのメナドでもバラクーダの群れなどが見れるということを紹介したかった。ポイントの名前はずばり、バラクーダポイント。エントリーして、流れに身を任せる。最初に出て来たのは、ギンガメアジの群れ。接近すると、どんどん深場へ逃げ去っていく。それでもなんとか撮影。後でガイドのアバに、「追わずに待っていたら、向こうから来るよ…」と突っ込まれる(汗)。そして、アバがトップリーブを捕まえてと合図。待っていると、200匹ほどのバラクーダの群れが潮に逆らってやってきた。今度は上手く接近。少しの間、ゆっくりと私たちの近くを泳いでくれる。どうもガイド陣は、潮の流れを見て、どのあたりでバラクーダが出てくるのか予想ができていたらしい。気持ち良いドリフトダイブで大物を楽しめた1本となった。

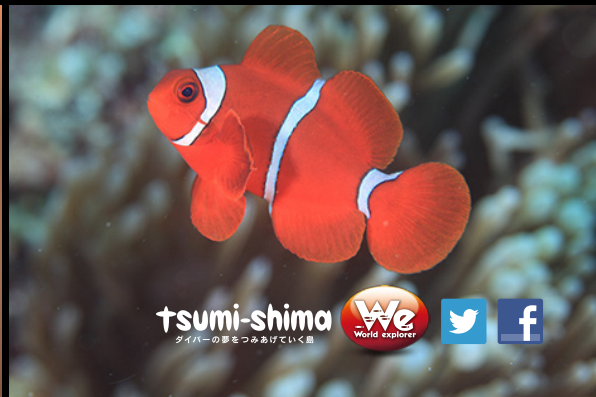
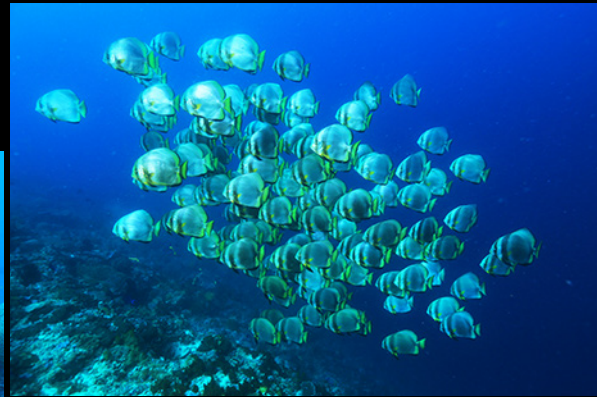






# まだまだワイドの景色?!

2本目は、メナドトゥア島に移動して、タンジュンコピに潜る。ここは気軽にギンガメアジの小規模な群れに会えるポイントして重宝されている。エントリー後、残念ながら潮流はなかったが、それでもドロップオフではナンヨウツバメウオの大きな群れに出会った。そして、1匹のタイマイに付いていくと、岩の下で隠れるタイマイのツーショットに。やはりワイドの景観ばかり目に飛び込んでくる。そして、ガイドのアバが、イソバナに群棲しているワレカラを見せてくれる。最後はやっぱりマクロか…と思いながら、ゆっくりと浮上を開始した。







## ローカルエリアのかなりやり手のポイント・アバポイント

3目、ローカルエリアのアバポイント。栈橋からほど近い村の前のポイントだが、潜ってみて、びっくり！ダイナミックな地形に、ハギなどの魚影も濃い。壁沿いにはソフトコーラルや大きなカイメンの群棲も。リーフを右手に進んでいくと、黒い砂地に到着。

ヤッコエイやフエダイの仲間が泳いでいる。6月～8月になると、この砂地にカエルアンコウやハナイカなどもやってくるという。砂紋が印象的で、白い砂地とはまた違った趣が素敵だった。





ロマンティックなダイバーのためのリゾート!

## ココティノス・マナド

空港から一番近いダイブリゾート（空港から25分）。まるで自分の家にいるかのように過ごしてもらえる、というのがコンセプトで、セカンドハウスな存在のリゾート。2007年オープンで、もうすぐ9年目を迎える。海岸線に位置し、程よいサイズの敷地内には、プールを中心に客室やレストラン、ダイビングセンターが囲む。敷地内は無料wifiがある。日本人スタッフの森美季さんが常駐しているので、言葉の心配もない。



# 海の風を感じながら過ごす休日

客室は3つのカテゴリー。ガーデンルーム12部屋、ウォーターエッジ8部屋、スイートが2部屋。天井の高い広い室内で、センス良くまとめられている。それぞれの部屋には、テレビ、冷蔵庫、エアコン、ドライヤーなどを完備。懐中電灯や電気式の蚊よけなどもある。温水シャワーとトイレのスペースが広く、リゾート気分を満喫できる。ウォーターエッジとスイートにはバスタブがあり、スイートは、リビング、オーシャンビューのバスタブ、またDVDプレイヤーなどもある。各部屋には、シングルサイズのデイベットがあり、もう1名分のエキストラベットとしても活用することができる。



スパは、3時から11時までオープン（ラストオーダーは10時）。インドネシアスタイルで、オイルを使用したマッサージ。ダイビングや日焼け後に人気がある。トコスというお土産屋さんもあり、Tシャツやアロマオイルなどの小物、また歯ブラシなどの日用品など販売している。



## Indonesiaメナド MANADO

海を眺めるレストランのメインはインドネシア料理で、チリを使ったチキンやお魚がお薦め。また、メナドオリジナルのリチャゴレンやフレッシュなダブダブなどのソースなどもお料理のアクセントに是非。また西洋料理やタイ料理、中華料理などのセレクトもある。基本的には3食ビュッフェになるが、ゲストの数が少ないときは、セットメニューとなる。午後のダイビングを終えると、アフタヌーンティー（5時～6時まで）。コーヒー、紅茶と軽食などのローカルスイーツが用意されている。







# Indonesiaメナド MANADO

## ダイビングはオデッシーダイバーズにお任せ!

ココティノスの敷地内に併設されているオデッシーダイバーズは、至れり尽くせりのダイビングサービス。滞在中は、スタッフがカメラ以外の全て器材を管理してくれる。器材のセッティングから運搬、水洗いまで。最終ダイブを終えると、出来る限り乾かして、ゲストの部屋まで持って行ってくれるというサービスの良さ。

最大ゲスト4名に1ダイブマスターのグループ編成。ガイドングは、基本的にはローカルスタッフが先行し、講習などは、日本人スタッフの森美季さんが担当する。午前中はブナケン島周辺2ダイブ、午後はリゾート近くのメインランド側で1ダイブ潜る。もし

希望でブナケン島で3本の場合は、ランチをボートの上で食べる。レンベへの遠征も行って、最小催行人数は4名。またブナケン島とレンベの間に位置するソフトコーラルが美しいソバンカエリアへの遠征は、最小催行人数は4名。

敷地内に専用の棧橋があるので、無駄な移動がない。ダイビングボートは3隻で、トイレ、シャワー、ドライタオル、水、コーヒー、紅茶、フルーツも用意されている。カメラ用の真水タンクも用意してある。



## ダイビングエリア

メナドの海は、サンゴ礁などのワイドの景観が楽しめるブナケン島の周辺やココティノスがあるメインランド側では、砂地やパッチリーフでマクロの生き物を楽しむことができる。国立公園に指定されているブナケン島の周辺は、シラデン島、メナドトゥア島、モンテハゲ島、ナイン島などがあり、それぞれの島のダイビングポイントには特徴もあり、バラエティに富む、また、他にもモラスに位置する沈船のポイント、モラスシップレックなどもある。





## メナドの朝市

最終日に時間があつたので、まずは早朝、メナドの朝市に行ってみました。これはオプションツアーとしてホテルで催行されているツアー。朝5時半にロビーに集合、送迎車に乗り込み、メナドの町の方面に約30分。到着した頃にはすっかりと明るくなっていた。朝の市場はエネルギーに溢れている。新鮮な魚介類の積み上げがあつたり、山から持ち込まれるみずみずしい野菜、また羊や鶏なども売られている。ダイビングのエリアでは知ることのない、メナドの地元の人々の生活を垣間みることができる。これはかなりお勧め。朝食は地元のレストランで、プブマナド。かぼちゃや空芯菜が入った麺のお粥のようなもの。ここに小魚のかき揚げや厚揚げを入れて食べる。これもまた旨い!

# Indonesiaメナド MANADO



## お薦めのオプションツアー!

## カニ獲りツアー

また3時間ほど時間のある方にお薦めなのが、カニ獲りツアー。ローカルの細い船に乗って、カニに仕掛けをし、捕獲しようというツアー。リゾートの栈橋から出発。約15分程で川に到着。少し上流に向かった場所で、手作りの籠にお魚の切り身を入れて沈める。その数は約10個。そのまま1~2時間程、ボートで上流に向かったり、途中で散策したりして、時間を置いてから籠を揚げに行く。もちろん毎回、捕獲できているわけではないが、ひとつの籠に大きなカニが1匹、また小さいのが2匹入っていることも。捕獲したカニは、レストランで調理してもらい食べることができる。

